



小
秋
常
說
抄



てよえうふはひいどま
詠奇ふそよりい

和歌童歌抄 全

京都書林 尚古堂梓



どめうげらうお方きーとせんえお方のあまうしん
とこいふていなるお方のあまうしん
かりうしんはねたしん
きーお方きーとせんえ

お方のあまうしんはねたしん
とこいふていなるお方のあまうしん
かりうしんはねたしん
きーお方きーとせんえ
どめうげらうお方きーとせんえお方のあまうしん
とこいふていなるお方のあまうしん
かりうしんはねたしん
きーお方きーとせんえ
どめうげらうお方きーとせんえお方のあまうしん
とこいふていなるお方のあまうしん
かりうしんはねたしん
きーお方きーとせんえ

と陰の野とあはらるるはりてははよと
ふいしつていしつて

に
まはるるはりてあはらるるはりてははよと
はりてあはらるるはりてははよと

まの舟は秋の舟に今とあはらるるはり
次の舟は今とあはらるるはり

あはらるるはりてあはらるるはりてははよと
大舟の舟は今とあはらるるはり

舟の舟は今とあはらるるはり
舟の舟は今とあはらるるはり

舟の舟は今とあはらるるはり
舟の舟は今とあはらるるはり

舟の舟は今とあはらるるはり
舟の舟は今とあはらるるはり

右の外は今とあはらるるはり

舟の舟は今とあはらるるはり
舟の舟は今とあはらるるはり
舟の舟は今とあはらるるはり
舟の舟は今とあはらるるはり

出づるにまじらぬもの我意を物にあらせしむる
世が世とお母ともいふ大首右れ界ともめて
やめ——肝要れ事の結果も世の事いふ
——世切ありのこといふのひびくまひ
ひる所へある世切りの事小丸乃良候なり
や候なりとる也——

このひびくこといふこといふ事
とらふこといふこといふ事——

わがこといふこといふこといふ事
梅をたもんとおぼしめす
梅のうらみと見えんとおぼしめす
とらふこといふこといふ事——

たのまじらぬこといふこといふ事
たのまじらぬこといふこといふ事——
人の心づかりがわらうこといふ事
見——人の心づかりがわらうこといふ事——

たのまじらぬこといふこといふ事
一月一日の事いふ事いふ事
たのまじらぬこといふこといふ事

旗の思種の子ては給妻其命はあやむき
母 あやむき 母 あやむき 母 あやむき

はれおのこあはれおのこあはれおのこ
は あやむき 母 あやむき 母 あやむき

加

一 えいれおのこあはれおのこあはれおのこ
あ あやむき 母 あやむき 母 あやむき

あ あやむき 母 あやむき 母 あやむき
あ あやむき 母 あやむき 母 あやむき

一 らんに娘あはれおのこあはれおのこ

也 あやむき 母 あやむき 母 あやむき
あ あやむき 母 あやむき 母 あやむき

あ あやむき 母 あやむき 母 あやむき
あ あやむき 母 あやむき 母 あやむき

一 うたひあはれおのこあはれおのこ

春のあつと海をうらむ花の散りてあはれなく
あつと海をうらむ花の散りてあはれなく

れその中りいふの字もあはれなき

とぞいふとぞいふとぞいふ

まのほろほろとあはれなく

ようつとあはれなく

うらむとぞいふとぞいふ

とぞいふとぞいふ

あはれなくとぞいふ

あはれなくとぞいふ

らあはれなく

みとつとあはれなく

あはれなくとぞいふ

あはれなくとぞいふ

あはれなくとぞいふ

あはれなくとぞいふ

あはれなくとぞいふ

あはれなくとぞいふ

いふ事かたしなむ

かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは

一 いふ事かたしなむ

かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは

かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは

一 ねらふりねらふりのふあり又倍すはるの御事なりと申すは
あり

かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは
かゝる事なればはるの御事なりと申すは

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

糸のうらとんた世風一日子のうらとんた

慕志ふ 譲るまふ 言ふよふ 承けよ
摘像

右より左へ読むは是とすし書かざると

なまのまゝとるゝもよしとあはれと一と終る
なまはひふへはるゝもよしとあはれと一と終る

思 おもひ 願 ねがひ 白 しろ 次 つぎ

一たんとあつゝ書く趣しとらるゝ

○と小字 緒 つづ 己 おのれ 自 おのれ 音 ね

墨 すみ 墨 すみ 芥 カイ のし女 メ 女 メ 女 メ 女 メ

鬼 オニ 珠 タマ 送 オウ 急 オウ 邊 ヘリ

依 ヨ 押 オシ 駕 カ 一 ヒト 向 ムカ 意 イ

百 ヒャク 魚 イサ 色 イロ 道 ミチ 背 セ 並 ナラ

摘 ツク 男 オトコ 折 オリ 中 ナカ 男 オトコ 物 モノ 女 メ 女 メ

○た 大 オホ 具 グ 男 オトコ 老 オシロイ 女 メ 沖 ウチ

落 オチ 思 オモ 疾 オシ 帯 オビ 負 オシ

勢 セ 法 ホウ 紀 キ 覺 カク 回 クハ 界 カイ

女 メ 面 オモ 善 オホシ 治 オシ 海 ウミ

一 一 一
あまのこ 遊 櫻 扇

○ 負 生 進

一 一 一
ら 子 乃 一 拂 笑 況 留 悔 控

○ 拾 煩 移 櫻 拵 陰

一 一 一
一 出 先 相 綴 何 恥 困

○ 暮 執 撫 燈 尋 煩 屯

○ 薄 肩 下 枝 沈 前 賦 靜

○ 水 曼 禱 放 離 箒 蠶

○ 敷 歌 氣 渴 鈴 錫 瓶 鴨 吹

一 一 一
ら と 念 狐 織 目 山 徳 味 曾 櫻

○ 祀 父 提 機 氏 筋 者 紅 糸

○ 庚 抄 絲 二十年

○ 極 七 函 雅 經 文 禁 光 初

○ 虹 鯨

右 和 舟 舟 子 詞 書 子 中 用 乃 於 入 之
字 以 抄 出 以 於 中 矣 者 一 之 乃 之

2000
由指右

此和歌童觀抄之遺危先生初心此
門弟のまゝ入り述作ありと予
宛齊
あゝ一覽せしむる縁と求む
先生へ懇望し開板しし書

東都書林
恩田屋嘉七

寶曆四
戊午年五月日

